

○ 本校の概要

・教育目標：①心身ともに健康な生徒 ②自ら学び、解決する生徒 ③自他を大切にし、鍛え合い、高め合える生徒
・特色ある教育活動：①キャリア教育の推進 ②学力の向上(ICT活用) ③生徒の自主活動の推進 ④食育の推進 ⑤特別支援教育の充実
・指導の重点：①「確かな学力」の定着と「分かる授業」(タブレット活用)② 生徒の主体的、対話的で深い学びの実践 ③ 意図的・計画的な話し合いの実践、論理的な発表の育成 ④読書活動と言語活動の充実

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価 人数 コメント	
ブラン 1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもたちの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4 85%以上 60%以上 40%以上 40%未満	4 3 2 1	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン1に関する質問項目の肯定的な評価回答の割合は、保護者95.5%(+0.4)〜昨年度比。以下同じ、生徒95.5%(+1.9)と高く、求められる水準を上回っている。教員の肯定的な評価の割合は94.2%(+0.9)、高い水準にある。特に、「論理的、科学的な思考力の育成を目指した授業を行った」に対する教員の回答は100%であった。背景には、生徒が学習に興味・関心をもてるように、教師がデジタル教科書やプレゼンテーションソフトを用いて教材を提示したり、生徒がデジタルツールを用いて互いに積極的に意見交換や調べ学習をしたりする中で、物事を論理的に、また、科学的根拠に基づいて思考するなど、「主体的・対話的で深い学び」の実践を具現化したことによるものと考えられる。おおた教育ビジョンにおける成果指標でもある「大田区学習効果測定」においても、1年国語や3年数学の観点「思考・判断」等において、全校の平均値が全体の目標値を10%以上上回っている。人権教育の推進については、「人権教育全体計画」に基づき、各教科、特別活動、特別の教科道徳、総合的な学習の時間を通じ、組織的・計画的に実践できている。	A 7 B 1 C 0 D 0	・授業参観で先生方が授業を楽しそうなる努力を感じた。 ・授業や生活指導の中で、日頃から社会に出る準備を意識した教育をしていたという印象。SNS上のトラブルなど保護者は本来ならば家庭内で教育を行うべきことを学校に依存する傾向が見受けられ、学校と保護者が連携して対応できることが望ましいと考えます。 ・とても高い水準にあり、持続していただきたい。学力向上においても回答のバーセンテージを見ると、満足しているのがかかっている結果が出てきているように感じます。 ・授業参観において、生徒が積極的に発言をしていた。先生方が工夫して授業を進めていることが伺えた。先生方を含め、世の中の人手・人材不足は深刻です。何か打開策と知恵を出し合い、考える時期なのかもしれません。 ・先生方にご多忙の中でも、ICT機器の研究を進め、適切に授業に取り入れてくださっていると感じました。一方、タブレットに頼りすぎず、自分で文字を書くことも授業で行っていることで、続けていただければと思います。講師不足はどの学校でも顕著になってきており、もはや各学校で対応するのは難しいので、区や都でしっかり対策をとっていただきたいと思います。 ・教師がデジタル化に対応できているように感じます。結果、生徒が学習にさらに興味、関心をもてたと思います。教師のさらなる努力に期待します。 ・教員と生徒の評価差は、内容を検討する必要があると思います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4					
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器、タブレットを活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4					
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4					
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
		キャリア教育を通して、生徒が主体的に社会に参画するために必要な力を身に付ける授業を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
ブラン 2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4 85%以上 60%以上 40%以上 40%未満	4 3 2 1	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン2に関する質問項目の肯定的な評価回答の割合は、保護者79.0%(+0.3)、生徒86.4%(+0.4)である。保護者の評価回答は求められる水準をやや下回っているが、教員の肯定的な評価回答の割合は95.8%(+2.0)である。また、「授業はわかりやすい」という質問項目に対して、93.9%の生徒が肯定的な回答をしていることから、特別の教科道徳や総合的な学習の時間の取組を含めた各授業において、教師がICTを有効に活用して分かりやすい授業づくりを工夫し、生徒が主体的に学習に取り組んでいることが考えられる。「大田区学習効果測定」においても、全学年各教科の観点別の平均値が、全体の目標値や区の平均値を概ね上回っている。	A 7 B 1 C 0 D 0	・授業内容がわからないことで勉強がいやになる。先生方に気軽に聞ける関係になってほしい。 ・学校公開の授業を拝見している中で、教員の方々の創意工夫した授業の進め方を感じる。生徒たちも理解の速いしあれど、比較的集中して授業を受けている印象があった。 ・この項目も高い水準を保ち、学校生活を送っているのが受け入れられて満足しています。 ・落ち着いた授業ができる環境が学習への効果にも現われていると思います。 ・公立学校では個々の学力差が大きく、一律のペースで授業を進めるのは難しいと思います。すでに実施して下さっているように、少数授業や補助員を活用し、それぞれの生徒が「わかる体験」を積み重ね、意欲を高めてほしいと思います。 ・教員の努力が保護者や生徒の高い評価につながったと思います。更に努力を願っています。今後ICT教育は重要。AI導入など更に進化するので、教員の質の向上にも期待。生徒と教員のコミュニケーションがうまくいっていると思います。 ・教員のICT活用が生徒に受け入れられていると思われます。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2〜3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2					
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3					
		分かりやすい授業を行うために、学習指導を工夫改善している。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4					
ブラン 3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を育くみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4 85%以上 60%以上 40%以上 40%未満	4 3 2 1	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン3に関する質問項目の肯定的な評価回答の割合は、保護者92.3%(+4.4)、生徒92.0%(±0)、教員94.8%(+5.2)であった。昨年度は保護者として「授業はわかりやすい」という質問項目「お子様は学校で積極的に取り組んでいる」という質問項目の肯定的な回答の割合が昨年度と比べて28.4%上昇した。生徒の自己肯定感に関する質問項目の肯定的な回答の割合は85.3%であり、昨年度と同様に高い水準を維持している。コロナ禍における学校や家庭等での教育的活動の制限や、生徒の体験的活動が更に拡大したことが要因だと考えられる。今後も「学校生活調査」と「WebQJ」の結果を基に、生徒の個に応じた指導や支援を行い、生徒が学校生活を楽しく自己肯定感や自己有用感を高めていけるように努めたい。	A 8 B 0 C 0 D 0	・コロナ禍以降、感染予防もあって、清潔にすることが身についてきたようだ。 ・生徒たちもコミュニケーションをとった中で印象は、ルールを守りながらそれぞれの個性を感じることができた。思春期特有の反抗や照れもあると思うが、挨拶や話の受け答えもよい印象がある。今後も継続して学校生活を続けてもらいたい。 ・問題なく特になし。 ・コロナ禍で人との関わりが希薄となり、死と向き合う機会が少なくなりました。生命を尊重するということはとても重要なことです。 ・校内の清潔が保たれ、生徒の身だしなみも整っており、学校生活におけるルールや常識が身についていると感じます。自分に自信をもてない子が一定数見られるようです。学校で、あるいは家庭で、小さな目標をもち、それを達成することで周囲に認められる経験を積み、少しずつでも自信をつけてほしいと思います。 ・生徒は学校、家庭の生活面で安定していると思います。結果、保護者や生徒の評価につながったと思います。更に努力を願います。 ・親(保護者)と子(生徒)とで日頃から会話が行われていると思われる。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に1回(年間3回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4					
		学年・学校行事等の体験的活動や各種行事を通して、自己肯定感を高め、豊かな情操と主体的な児童を育てる。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
ブラン 4 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4 85%以上 60%以上 40%以上 40%未満	4 3 2 1	保護者および生徒を対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン4に関する質問項目の肯定的な評価の割合は、保護者82.3%(+3.8)と増加したが、保護者72.0%(+8.1)、教員94.8%(+3.8)とそれより昨年度を下回った。生徒の「普段から身体を動かすこと」の楽しさに関する質問項目の肯定的な評価回答の割合は共に80%を超えており、昨年度と比べて大きな変化はない。コロナ禍の状況に変化が生じ、生徒の運動習慣の確立や体力向上に関する家庭のニーズが高まりつつあることがわかる。東京都の体力調査の結果から、生徒は都府県平均値を維持、または、やや上回る結果を示しているが、基礎的な体力向上を図ることが課題である。体育や部活動等の活動の中で反復的な運動を継続して実践する。	A 4 B 4 C 0 D 0	・運動部に入部している生徒の割合はどうか知りたいた。 ・日常生活を送る中で体力低下を感じる。体育の授業、部活動などの中で基礎体力を向上してもらいたい。眼界があると思うので、各家庭でも考える必要がある。食の面でもいわゆる「好き嫌い」が多く、その多くは食べず嫌いが多いのが保護者の中でも多く聞かれる。学校任せではなく、各家庭での教育も必要。 ・高い水準の数値で、先生が工夫し質の高い教育を提供していることがわかる。 ・得意不得意があっても体を動かすことは体力向上や気分転換にもつながり、学習にもよい効果となるはずです。体育や部活動に限らず、体を動かす環境を提供してほしい。 ・元々スポーツが苦手な子は、コロナ禍においてますますスポーツから遠ざかってしまったと思います。体を動かすことは健康な生活を送るために障がいが必要なことなので、それを理解し、気軽に楽しく体を動かせるような学習を取り入れていただきたいと思っています。 ・コロナ明け、様々なスポーツイベントが再開しました。積極的な参加を願います。 ・体力向上は従来からの課題と思われます。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
		保健体育科の授業、体育的行事、部活動等を通して健康増進の意識を高め、心と体のバランスの保持増進をめざす。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
			4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					
ブラン 5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4 85%以上 60%以上 40%以上 40%未満	4 3 2 1	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン5に関する質問項目の肯定的な評価回答の割合は、保護者92.3%(+0.2)、生徒95.7%(+0.1)と、求められる水準を上回っている。教員の肯定的な評価の割合も92.9%(+5.5)と、昨年度に比べて下回ったものの高い水準である。また、質問項目「学校の生活を楽しんでいる」(93.5%)、「大森第十中学校に入学してよかったと思う」(93.8%)、「先生は、わかりやすい授業を行うために、学習指導を工夫改善している」(97.2%)と生徒が回答していること、研究や研修に参加し、自身の授業改善を生かしたという質問項目への教員の肯定的な回答の割合も92.8%であることから、生徒が一人1台タブレット端末を効果的に活用したり、教員が自身の授業力向上のために日々研鑽・工夫している成果が表れていると考えられる。今後も、生徒が安全・安心に学校生活を送るために、特別支援教室の教員との情報共有も引き続き密に行い、教員の指導力向上や、良質な教育環境の整備を積極的に実践する。	A 8 B 0 C 0 D 0	・先生方のチームワークのよさが生徒に対する対応につながり、よい評価が出ていると思う。 ・いわゆる授業以外の時間も教員(校長・副校長も含め)がよく生徒たちを観察し、良好なコミュニケーションをとっていると感じる。反抗的な態度をとる生徒もいると思うが、理性的で真摯に生徒と接している印象。今後も継続して進めていただきたい。 ・問題なく特になし。 ・「十中に入學させてよかった」「十中を卒業したことを誇りに思うことはとても嬉しいことです。水面下には沈み、見つけにくい問題等にも取り組んでいたという成果だと思います。 ・先生方のたゆまぬ努力のおかげで、十中はいくつもの学びが身につけていると思います。また、おたじい先生も耳を傾けていただければと思います。 ・「十中に入學してよかったと思う」93.8%は評価できると思う。今後も教員の指導力向上に期待します。 ・教育環境に満足しているもの、さらなる向上を願います。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:1月1回以上行った。 3:学期に2〜3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
			4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					
			4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					
ブラン 6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページで公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1月1回以上更新した。 3:学期に2〜3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	3	4 85%以上 60%以上 40%以上 40%未満	4 3 2 1	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン6に関する質問項目の肯定的な評価回答の割合は、保護者76.6%(+0.1)、生徒81.6%(+0.2)と当該要素に基づいて求められる水準を概ね満たしている。教員の肯定的な評価の割合は88.5%(+10.4)となっている。アンケート項目のボランティア活動については、保護者、生徒、教員ともに低い数値を示しているが、今年度は、ボランティア活動や地域に開かれた教育の地域でのボランティア活動に生徒が昨年度よりも多く参加し、地域活動に貢献した。また、チャレンジ部や吹奏楽部なども地域行事に参加することができた。地域との連携及びボランティア活動の参加の在り方について更に検討していきたい。	A 4 B 4 C 0 D 0	・地域としてボランティア活動ができる環境を考えていきたい。 ・学校や地域の方は繋がることの重要性を理解し対応しているが、一般の保護者と地域との連携に課題がある。個人的には今後も地域との連携の重要性を保護者に理解していただけるよう活動していきたい。 ・3の評価になっていますが、コロナが原因でやむを得ないことだと認識しています。ボランティア活動も昔に比べるとやる気のある積極的な子どもが多くなっているのに残念です。以前のようにできるようになつたときに、子どもと地域を見られるのを楽しみにしています。 ・ここの数、学校や家庭については連携できていたかもしれませんが、地域とのつながりは希薄になったのではないだろうか。少しずつ無理せずに関係を再構築していきたい。 ・以前と比べ、家庭との連携がとりこい時代になっていると思います。保護者の皆さんには、ぜひ学校に足を運び、子どもたちの姿を見ていただき、子どもたちの自信につながるような声かけをしていただきたいと思っています。地域ではボランティアの機会を提供する等の活動をしていきたいと思っています。学校、家庭、地域が信頼関係を築けることではないかと思います。 ・コロナ明け、地域行事を再開しました。さらなる参加を願います。 ・ボランティア活動にさらなる努力を期待します。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4					
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2〜3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上を行った。 1:実施しなかった。	3					
		生徒の人間形成のために、学校・家庭・地域が協働して、生徒が主体的にボランティア活動を行う環境を整える。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2					
		生徒が主体的に活動する場面を通して、地域、家族、友人等の関わりの中で挨拶活動を行える生徒の育成を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	1					
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	1					